

*今年のソメイヨシノの花期が長かったのはなぜ？

皆さまは今年のソメイヨシノの花の開花は早かったのに中々終わらないと感じられていませんか？
たより23では、近くのソメイヨシノの画像を紹介致しましたが、これほどではないにしても、殆どの樹が上方には結構花を残しています。

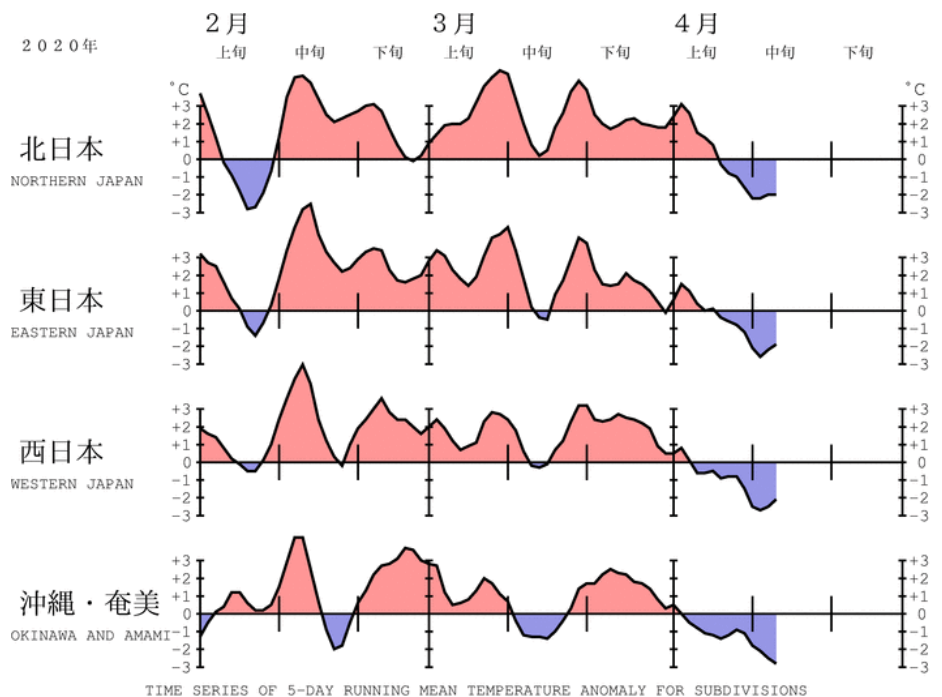
私の観察樹の様子、および科員が寄せられた詳細な観察データーからは、阪神間～大阪沿岸部では、数輪の開花後一気に花が増えて行くのではなく、この後の1週間ほどは気温がかなり高めであったにもかかわらず、徐々に増加、その後に急激に花を増やし満開となりました。普通この後は花吹雪となって花の時期を2週間から15日で終えるのが普通でしたが、今年はこの後も見かけ上の満開？状態が1週間以上も続いた様に思います。因みに、大阪気象台の平年とここ2, 3年の開花日～満開日までの日数を比較して見ますと次の通りです。

	開花日	満開日	開花～満開までの日数
平 年	3月28日	4月5日	8日
2017年	3月30日	4月6日	7日
2018年	3月20日	3月26日	6日
2019年	3月27日	4月4日	7日
2020年	3月23日	4月3日	11日

気象台では満開以降の記録はさされていませんが、私の附近では開花が3月22, 3日とほぼ大阪とは同じ頃、その後は、「サクラだより21」で紹介しましたように、4月9日の夙川オアシスロード、4月10日の芦屋川上流の写真からまだ花盛んの様子がお分り頂けたと思います。また、同じように今年の花の期間が長いと感じておられる科員の方も多いのではないかと思います。

ではどうしてこの様に花の期間が長くなったのでしょうか？これには2つの要因があったと考えられます。

右に今年の全国の2月以降4月中旬までの気温の平年との偏差を示します。3月までは平年をかなり上回る暖かい日が続きました。この影響で西日本では冬芽（花芽）の休眠打破の開始が遅れ、かつ目覚めの期間もシャープではなく、ダラダラと長期に渡ったと考えられました。このことは前報で記述した通りです。これが、開花から満開の期間が、気温が高目であった



地域平均気温平年差の5日移動平均時系列

更新日：2020年4月17日

にもかかわらず、長くなったと原因と考えられます。

一方、急激に開花し満開に至った後、長く花が残ったのは4月に入って一転気温が平年より低目に推移してきていると考えられます。このような現象は、昨年にも見られました。昨年は今年ほどではありませんが暖冬気味でしたが、4月上旬～中旬にかけての気温が1.5～2℃ほど低目に推移し、この結果遅くまで花が残ったという記憶があります。(また、同時期に観察していた展葉が1週間ほど遅れた。)

この様に、今年の気温の経緯を考えると花の期間が長かった原因は上記の2つの気温経緯で説明できるとおもいます。いずれにしても自然は正直ですね。

*気象庁の発表

今年が暖冬、少雪となった原因を以下のように発表しています。ご参考まで。

2020年(令和2年)冬(2019年12月～2月)の天候の特徴は以下のとおりです。

・東・西日本で記録的な暖冬となりました

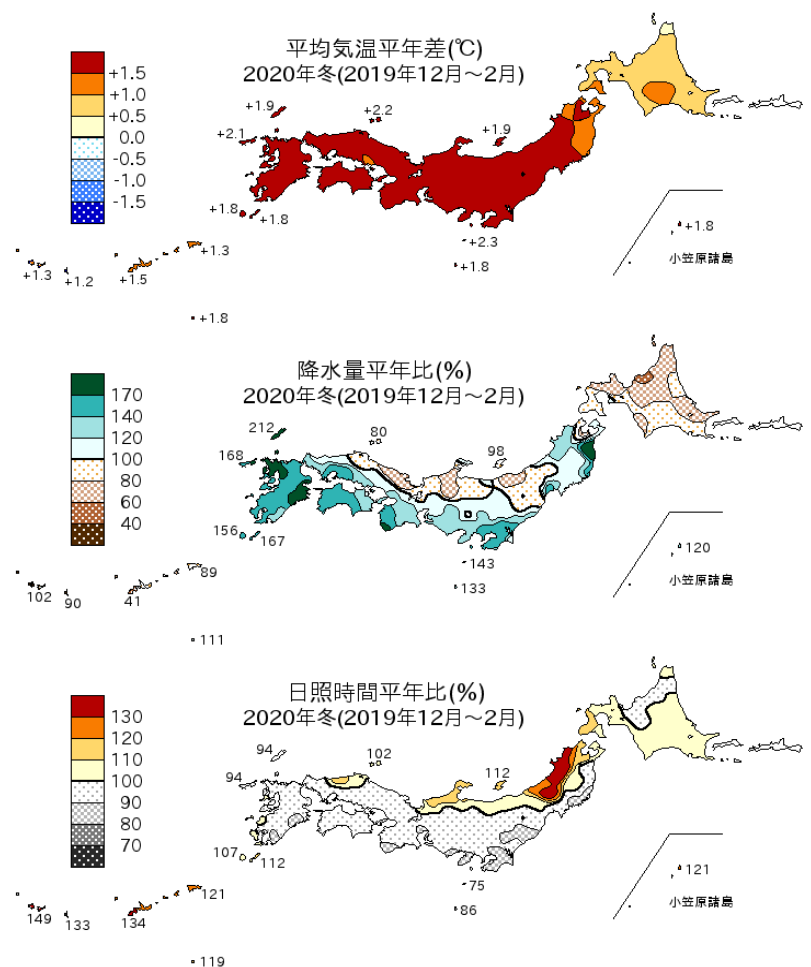
冬型の気圧配置が続かず、全国的に寒気の流入が弱かったため高温となる時期が多く、東日本以西の冬の気温はかなり高くなりました。特に、東・西日本では最も高い記録を更新しました(統計開始は1946/47年冬)。

・冬の降雪量は全国的にかなり少なく、北・東日本日本海側で記録的な少雪となりました

冬型の気圧配置が続かず、寒気の影響を受けにくかったため、全国的に冬の降雪量はかなり少なく、北・東日本日本海側では最も少ない記録を更新しました(統計開始は1961/62年冬)。

・冬の日照時間は、東日本太平洋側でかなり少なく、降水量は西日本日本海側でかなり多くなりました

低気圧や前線の影響を受けやすかったため、東日本太平洋側で日照時間がかなり少なく、西日本日本海側で降水量がかなり多くなりました。



*サクラ前線青森に到達！

4月17日、平年より1週間早く青森での開花宣言がだされました。東京から3月14日に始まった、今年のサクラ前線はジグザクしながらも約5週間で本州北端に達しました。前報では九州各地のサクラの開花状況と「休眠打破」に起因し開花の時期の遅れや、開花から満開までの期間が長くなったことを述べました。中でも開花が4月1日となった鹿児島は本日時点では満開

には至っておりません。地球温暖化がさらに進めば宮崎・大分あたりも満開とならない現象が出てくるのではないのでしょうか？

冬季の寒冷な東北や北陸の開花・満開の状況はどうだったでしょうか？気象庁の発表する個の冬の気温のデータとさくらの開花状況を以下にまとめてみました。

東北・北陸地域のこの冬の気温とソメイヨシノの開花・満開

場所	日平均気温 °C			3月	4月前半	ソメイヨシノの開花・満開		
	12月	1月	2月			開花日	満開日	開花～満開
青森	2.0	0.9	1.2	5.1	6.5	4月17日		
秋田	3.6	2.3	2.5	6.4	7.9	4月8日	4月15日	7日
盛岡	1.3	0.2	1.0	4.8	6.8	4月14日		
山形	3.3	2.3	2.5	6.1	8.4	4月3日	4月9日	6日
仙台	5.4	3.9	4.4	7.5	9.4	3月28日	4月3日	6日
福島	5.4	3.9	4.5	7.6	10.1	3月28日	4月1日	4日
新潟	6.6	5.2	5.0	7.9	9.5	4月1日	4月7日	6日
富山	7.4	6.1	5.5	8.4	9.9	3月27日	4月3日	7日
金沢	8.3	6.7	6.3	9.0	10.4	3月26日	4月1日	6日
福井	7.5	6.4	5.9	8.8	10.4	3月25日	3月31日	6日
					観測史上最速			

暖冬であったとは言え、東北各県の冬は厳しいですね。北陸の気温は大阪の平年値に近い値です。降雪がなく、対馬暖流の影響が強くでたのでしょう。前出の、気象庁の発表した12月～2月の平均気温平年差では地図が真っ赤に塗られ1.5℃以上高くなっていたことが伺えます。さらに、1ページに挿入した全国の2月以降の気温偏差でも北日本地域もかなり高めに推移したことが分かります。

この結果、この地域ではソメイヨシノの休眠打破は早期に終了し、各地で観測史上最速となる早い開花が記録されたと考えられます。また、開花から満開までの日数も6, 7日、「休眠打破」の期間のスパンが短かったことを物語っています。サクラ本来の「パット咲きパット散る」という潔さ、日本人の愛する美学が見られるのはこの地域だけになってきたのでしょうか。

*右は3月22日に開花した夙川公園の4月8日の写真です。今年は開花から17日たってもこの姿でした。サクラの名所にはバックがつきもの。この公園のバックは夙川の清流と年代ものの松並木。さらに正面に甲山が見え隠れします。兵庫県下では「姫路城」に次いで2位の人気スポット、「日本さくら名所100選」および「日本の歴史公園100選」に選ばれています。

以上宣伝。

